寺子屋朝日 for Teachers

徹底解説！

２０２５年度　新課程入試

河合塾

教育研究開発本部
主席研究員　近藤　治

★本日の内容

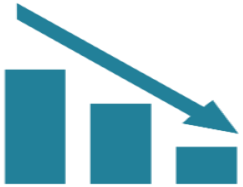
1. 今春（２０２４年度）入試の振り返り
2. 来年　２０２５年度新課程入試のポイント
3. 今後の大学入試（２０２５年度以降の変化）

1．今春（２０２４年度）入試の振り返り

河合塾

2024年度入試の受験環境

競争緩和　少子化と入学定員増



- **18歳人口の減少**
  18歳人口は前年からさらに3.4万人減少。前後５年で最少に
- **入学定員増で入り口広がる**
  国公立大で約8百人、私立大で約2千4百人増員

入試の変化　新課程入試前年

- **現行課程最後の年**
  現役合格を望む志向は顕著なものの、志望校を下げる動きはみられず

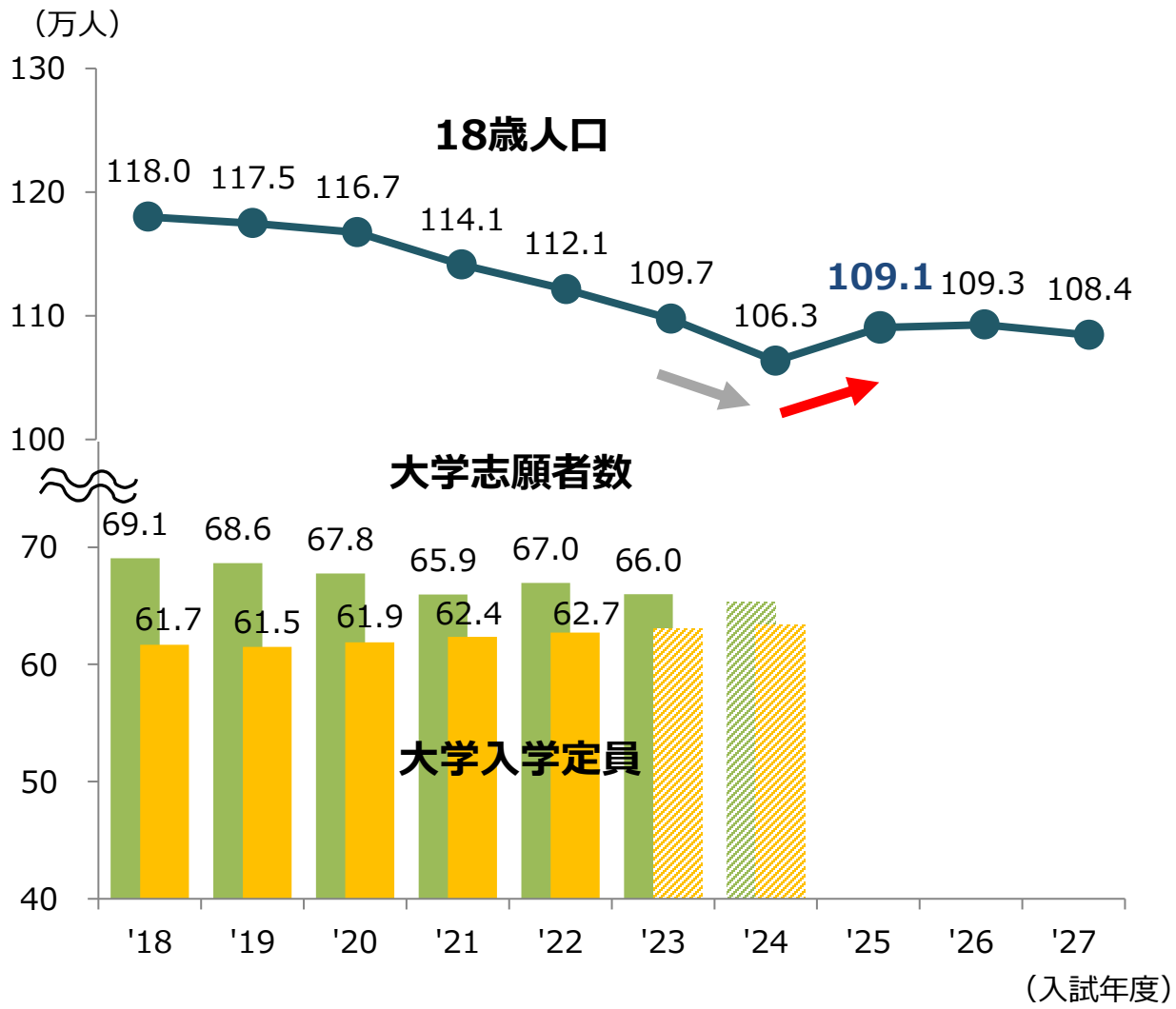
大学の機能強化　大学改革が進行中（今年度からの５年間が集中改革期間）

- **大学の主体的な改革を国が支援**
  ・理工系・デジタル分野－学部新設と女子学生確保の促進
  ・数理・データサイエンス・AI人材育成の推進
  ・国際卓越研究大学制度、地域中核・特色ある研究大学強化促進事業
- **取り組み不十分の大学はマイナス評価**
  ・定員未充足大の私学助成見直し、情報非公表大への減額強化
  ・修学支援新制度の機関要件の厳格化

©Kawaijuku Educational Institution.

受験人口は前後５年で最少も、大学志願者数は微減の見込み

● **18歳人口・大学志願者数の推移**



※学校基本調査、全国大学一覧より（斜線で表している年度は河合塾の推定）

2024年度

18歳人口はここ数年で
最大の減少幅（－3.4万人）

2025年度

18歳人口は増加に転じる（2.8万人増）
入学定員は国立大理系を中心に増加

18歳人口の増加に伴い大学志願者も増加が予想されるものの、全体には緩和傾向が続く見込み

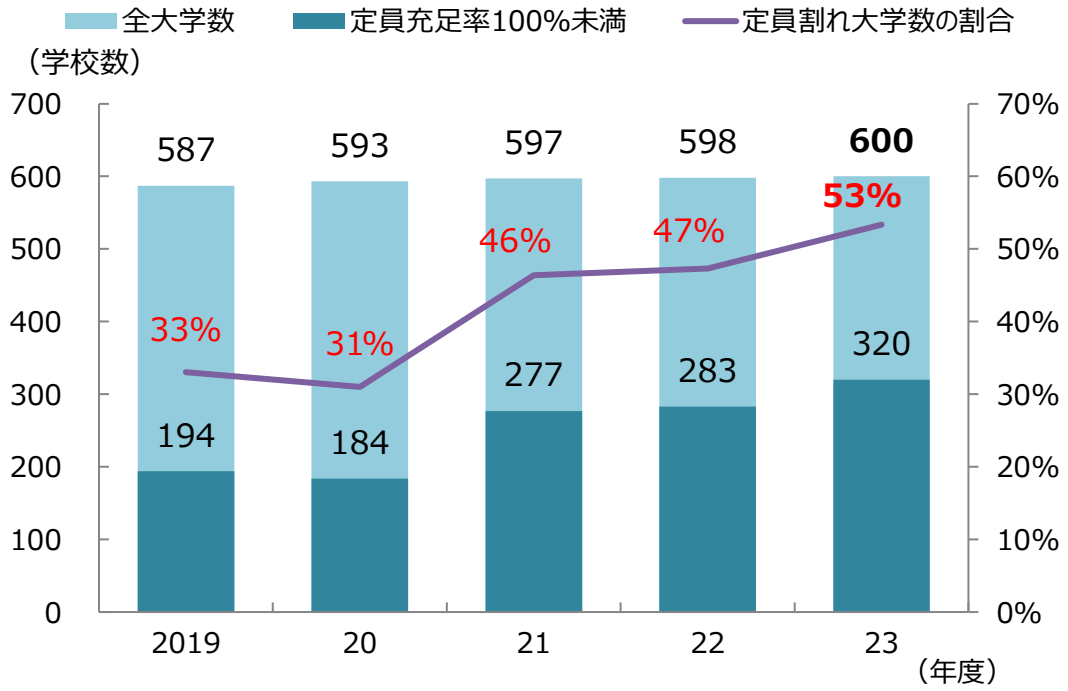
©Kawaijuku Educational Institution.

（参考）私立大入試の競争緩和　年々合格しやすい環境に

河合塾

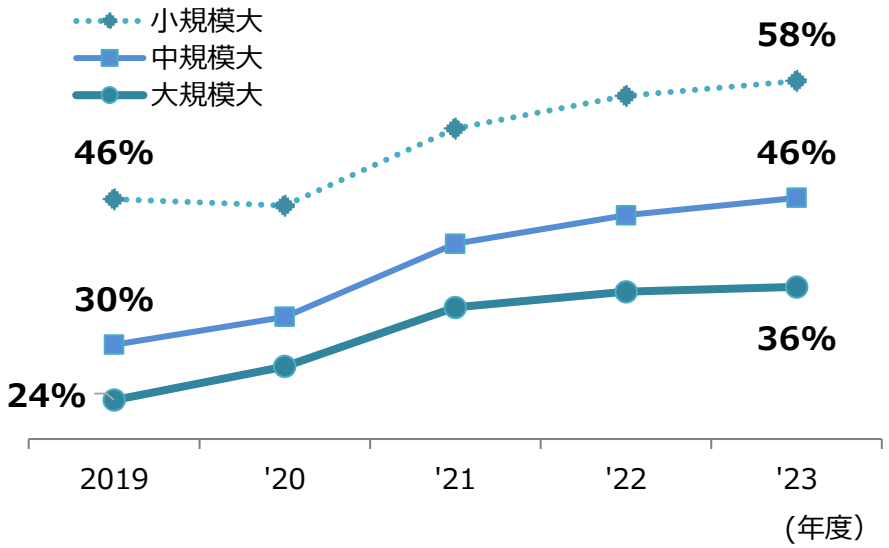
半数以上の私立大が定員割れ

定員割れ大学数の推移



※日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」より

合格率の変化



※日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」より
※小規模大は収容定員4,000人未満の大学、
中規模大は収容定員4,000人以上8,000人未満の大学、
大規模大は収容定員8,000人以上の大学
※合格率は合格者数÷受験者数

18歳人口の減少により、定員割れ大学の数が急増。その割合は５年前の33%から53%にまで上昇、現在、私立大の半数以上が定員割れとなっている。大学は入学者確保のため、合格者数を増やしており、合格率は上昇傾向にある。

©Kawaijuku Educational Institution.

河合塾

（参考）大学受験環境の変化

	1993年度		2023年度	増減比
高校卒業者数	1,755,338人	▶	966,957人	55.1%
現役大学志願者数	641,933人	▶	593,809人	92.5%
（現役志願率）	（36.6%）	▶	（61.4%）	
※現役志願率：現役大学志願者数÷高校卒業者数				
（現役入学率）	（56.2%）	▶	（92.7%）	
※現役入学率：現役大学進学者数÷現役大学志願者数				
（現役進学率）	（20.5%）	▶	（56.9%）	
※現役進学率：現役大学進学者数÷高校卒業者数				
大学入学者数	547,078人	▶	617,534人	112.9%
大学数	534校	▶	810校	151.7%

高卒者の６割が大学進学を希望
高卒後の進路として最も多いのも大学進学
大学数の増加と18歳人口減により入学率は全入に近づく

©Kawaijuku Educational Institution.

国公立大の全体概況－地方で進む競争緩和

● 日程別

日程	志願者数		合格者数		倍率（志/合）	
	2024	前年比	2024	前年比	'23	'24
前期	232,341	100%	91,593	100%	2.5	2.5
後期	159,846	100%	20,516	99%	7.7	7.8
中期	31,068	98%	5,180	101%	6.2	6.0

※河合塾調べ

● 地区別倍率の推移

地区	倍率（志/合）				
	2020	'21	'22	'23	'24
北海道	2.4	2.3	2.3	2.3	2.1
東北	2.6	2.5	2.5	2.4	2.3
北関東・甲信越	2.6	2.3	2.3	2.3	2.4
首都圏	3.2	3.1	3.1	3.2	3.2
北陸・東海	2.6	2.6	2.5	2.5	2.4
近畿	2.6	2.6	2.7	2.7	2.7
中国・四国	2.6	2.5	2.4	2.2	2.2
九州	2.5	2.4	2.4	2.3	2.3

※河合塾調べ、前期日程で集計

（参考）募集区分別　実質倍率の占有率

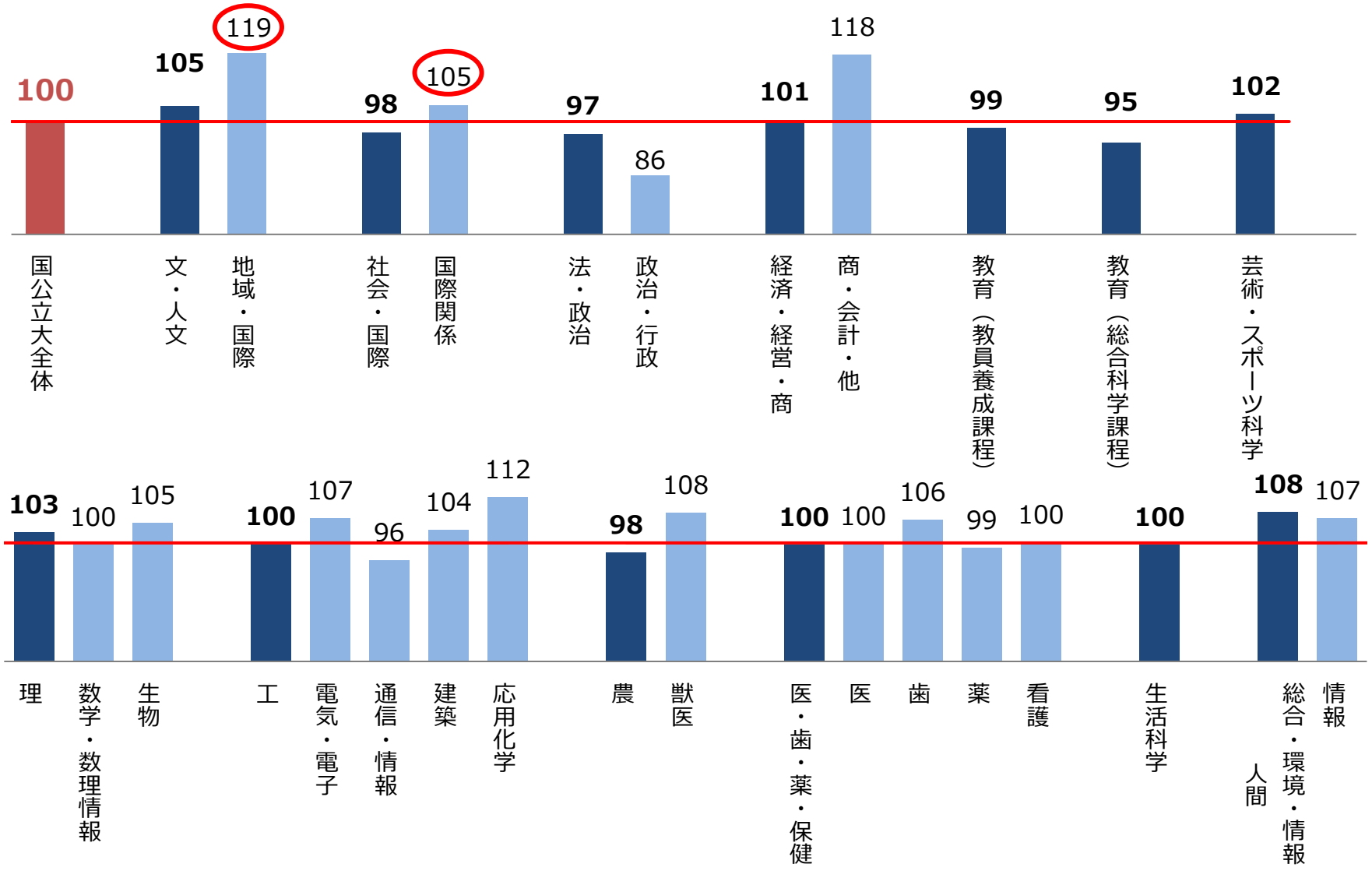
実質倍率	占有率		
		国立	公立
2.0倍未満	47%	50%	40%
2.0～3.0倍未満	36%	35%	40%
3.0倍以上	17%	16%	20%

※河合塾調べ、前期日程で集計

- 今春の国公立大入試は各日程とも志願者数・合格者数に前年から大きな変化はなく、全体としては前年並みの入試であった。
- この５年間の各地区の倍率の推移をみると、首都圏、近畿圏は5年前と同水準を保っているが、その他の地区は徐々にダウン、２倍台前半まで緩和している。
- 募集区分別の実質倍率を集計すると、47%が2.0倍未満となった。

©Kawaijuku Educational Institution.

国公立大入試のトピック－近年は女子のキャリア意識の変化が系統人気にも影響



※河合塾調べ、前期日程で集計
※グラフ内の数値は志願者前年比（%）、濃い色は学部系統を、その右側の薄い色は系統内の特徴のある分野（抜粋）を示す

● （参考）系統別の女子占有率の変化

志望系統	2019	2023	差
文・人文	15.5%	14.1%	-1.4%
社会・国際	8.9%	7.8%	-1.1%
法・政治	4.7%	5.2%	0.5%
経済・経営・商	7.6%	8.5%	0.8%
教育－教員養成課程 総合科学課程	11.1%	10.2%	-0.9%
総合・環境 情報・人間	3.6%	3.4%	-0.2%
理	2.9%	3.3%	0.5%
工	8.5%	9.4%	1.0%
農	5.7%	6.2%	0.6%
医	5.2%	5.9%	0.7%
歯	0.4%	0.5%	0.0%
薬	2.3%	3.1%	0.8%
看護	12.7%	11.8%	-0.8%
医療技術・他	4.9%	4.8%	-0.1%
生活科学	3.3%	3.0%	-0.3%
芸術 スポーツ科学	2.6%	2.6%	0.0%

※第２回全統共通テスト模試より
（2019年度は全統マーク模試）
※国公立大の女子志望者全体における各系統志望者の割合を算出

©Kawaijuku Educational Institution.

私立大の全体概況－全体の７割弱が倍率２倍を切る

● 全体概況

	志願者数			合格者数			倍率（志／合）	
	2023	2024	前年比	2023	2024	前年比	'23	'24
全体	**3,052,082**	**3,017,689**	**99%**	**1,085,544**	**1,074,154**	**99%**	**2.8**	**2.8**
一般方式	2,020,827	1,977,839	98%	653,399	626,171	96%	3.1	3.2
共通テスト方式	1,031,255	1,039,850	101%	432,145	447,983	104%	2.4	2.3
一期	2,855,318	2,830,662	99%	1,030,084	1,018,803	99%	2.8	2.8
二期	196,764	187,027	95%	55,460	55,351	100%	3.5	3.4

※河合塾調べ（5/24現在、523大学判明分）

● 地区別の倍率の変化

地区	倍率（志／合）		
	'22	'23	'24
北海道	1.8	1.8	1.6
東北	1.9	1.8	1.7
北関東・甲信越	2.5	2.3	2.3
首都圏	3.1	3.0	3.1
北陸・東海	2.3	2.2	2.2
近畿	3.0	3.1	3.0
中国・四国	1.7	1.6	1.5
九州	2.4	2.3	2.1

※河合塾調べ（5/24現在）
※地区別は一般+共通テスト方式の数値

● 入学定員規模別　志願者数・合格者数

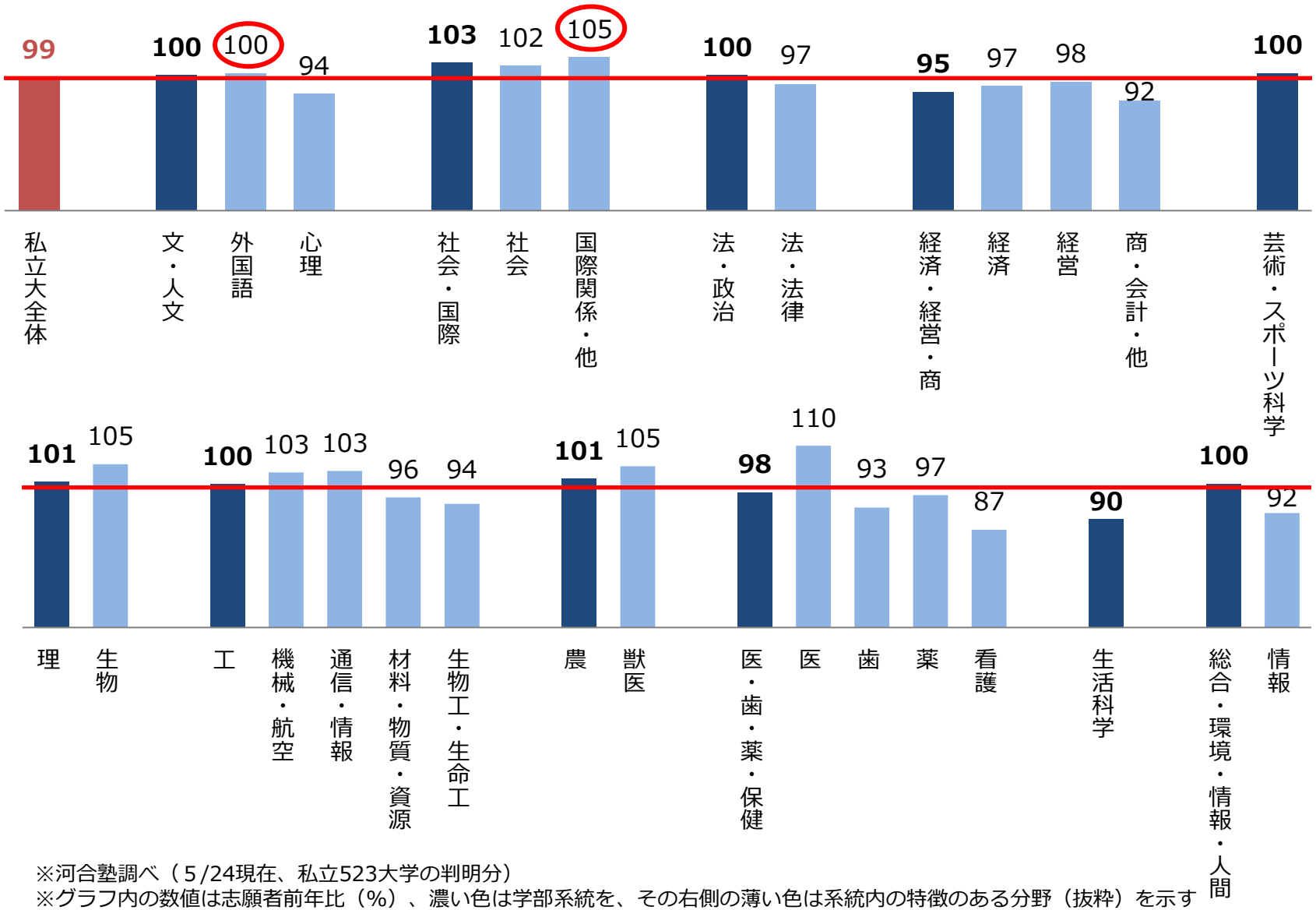
規模（入学定員）	方式	志願者数			合格者数			倍率（志／合）	
		2023	2024	前年比	2023	2024	前年比	'23	'24
1,000人未満	一般方式	258,537	240,767	93%	113,632	102,792	90%	2.3	2.3
	共通テスト方式	144,596	128,266	89%	79,332	73,759	93%	1.8	1.7
1,000人以上2,000人未満	一般方式	458,372	450,505	98%	163,186	156,871	96%	2.8	2.9
	共通テスト方式	286,659	292,567	102%	122,340	127,167	104%	2.3	2.3
2,000人以上	一般方式	1,303,918	1,286,567	99%	376,581	366,508	97%	3.5	3.5
	共通テスト方式	600,000	619,017	103%	230,473	247,057	107%	2.6	2.5

※河合塾調べ（5/24現在）

©Kawaijuku Educational Institution.

河合塾

私立大入試のトピック－情報系学部の人気は低調



※河合塾調べ（５/24現在、私立523大学の判明分）
※グラフ内の数値は志願者前年比（%）、濃い色は学部系統を、その右側の薄い色は系統内の特徴のある分野（抜粋）を示す

● （参考）系統別の女子占有率の変化

志望系統	2019	2023	差
文・人文	30.3%	26.6%	-3.7%
社会・国際	12.6%	11.8%	-0.8%
法・政治	4.8%	5.7%	0.9%
経済・経営・商	11.7%	13.1%	1.4%
芸術 スポーツ科学	3.9%	4.1%	0.2%
理	2.4%	2.9%	0.5%
工	5.1%	6.6%	1.5%
農	2.5%	2.8%	0.4%
医	2.1%	2.3%	0.2%
歯	0.2%	0.2%	0.0%
薬	3.5%	3.9%	0.4%
看護	8.5%	8.6%	0.1%
医療技術・他	4.0%	4.1%	0.0%
生活科学	5.8%	4.6%	-1.3%
総合・環境 情報・人間	2.6%	2.7%	0.1%

※第２回全統共通テスト模試より
（2019年度は全統マーク模試）
※私立大の女子志望者全体における各系統志望者の割合を算出

©Kawaijuku Educational Institution.

河合塾

学校推薦型・総合型選抜の状況－私立大では近畿以外の地区は１倍台前半

●国公立大

	志願者数				合格者数				倍率（志/合）	
	2023	2024	前年差	前年比	2023	2024	前年差	前年比	'23	'24
国公立大計	67,823	69,938	+2,115	103%	27,258	27,946	+688	103%	2.5	2.5
国立大計	43,373	45,062	+1,689	104%	17,107	17,478	+371	102%	2.5	2.6
公立大計	24,450	24,876	+426	102%	10,151	10,468	+317	103%	2.4	2.4

※河合塾調べ（5/30現在、174大学判明分）

●私立大

		志願者数				合格者数				倍率（志/合）	
		2023	2024	前年差	前年比	2023	2024	前年差	前年比	'23	'24
私立大計		481,052	479,824	-1,228	100%	266,083	274,534	+8,451	103%	1.8	1.7
地区別	北海道	6,968	6,807	-161	98%	6,111	6,022	-89	99%	1.1	1.1
	東北	9,973	9,581	-392	96%	8,391	8,308	-83	99%	1.2	1.2
	北関東・甲信越	10,801	10,301	-500	95%	9,127	9,039	-88	99%	1.2	1.1
	首都圏	113,806	115,097	+1,291	101%	79,824	81,415	+1,591	102%	1.4	1.4
	北陸・東海	42,646	44,356	+1,710	104%	29,264	30,984	+1,720	106%	1.5	1.4
	近畿	267,414	266,710	-704	100%	108,956	114,880	+5,924	105%	2.5	2.3
	中・四国	15,947	13,783	-2,164	86%	11,989	11,382	-607	95%	1.3	1.2
	九州	13,497	13,189	-308	98%	12,421	12,504	+83	101%	1.1	1.1

※河合塾調べ（5/30現在、512大学判明分）

©Kawaijuku Educational Institution.

2. 来年　２０２５年度新課程入試のポイント

河合塾

2025年度入試の注目ポイント－教育課程の改訂に対応した入試スタート

ここに注目！　**共通テストの変更点**

新
- 新科目「情報Ⅰ」登場（試験時間60分、配点100点）
- 「国語」は「近代以降の文章」が２→３問に増加、試験時間10分延長
  分野別の配点は、近代以降の文章110点、古文45点、漢文45点に

新
- 「数学②」は『数学Ⅱ,数学B,数学C』の1科目のみに
  選択問題は１問増加して４問中３問解答、試験時間は10分延長

新
- 「地歴・公民」の出題科目は10→６科目に

新
- 理科の試験時間一本化に伴い、「理科基礎」も解答順が第1解答科目の対象に
- 得点調整に新条件
  「平均点差20点以上」に加え、「平均点差15点以上かつ段階表示の区分点差20点以上」に変更

©Kawaijuku Educational Institution.

河合塾

共通テスト「国語」の変更点

言語活動の過程をより重視した問題を「近代以降の文章」に追加。大問数は計５問になり、試験時間は10分延長。
配点も変更され、近代以降の文章：古典は110：90に。

2024年度
試験時間 80分

設問	分野	配点
第１問	近代以降の文章	50点
第２問	近代以降の文章	50点
第３問	古文	50点
第４問	漢文	50点

100点

100点

2025年度（試作問題）
試験時間 **90分**

設問	分野	配点
第１問	近代以降の文章	45点
第２問	近代以降の文章	45点
第３問	**近代以降の文章**	**20点**
第４問	古文	45点
第５問	漢文	45点

110点

90点

※大学入試センター公表資料より、2025年度は2022年11月公表の試作問題の構成（毎年度同じ形で出題されるとは限らないとしている）

©Kawaijuku Educational Institution.

共通テスト試作問題「現代文」

- 「近代以降の文章（現代文）」が大問３問となった想定の第３問についてA・Bの２題が公表された。
- **これまで出題されたことのない形式で、現代の社会生活に必要とされる論理的な文章・実用的な文章からの出題となった。文章だけでなく図やグラフの読み取り、複数資料を関連づけた解釈など言語活動の過程を重視した出題となっている。**

▼問題の概要（第Ａ問）

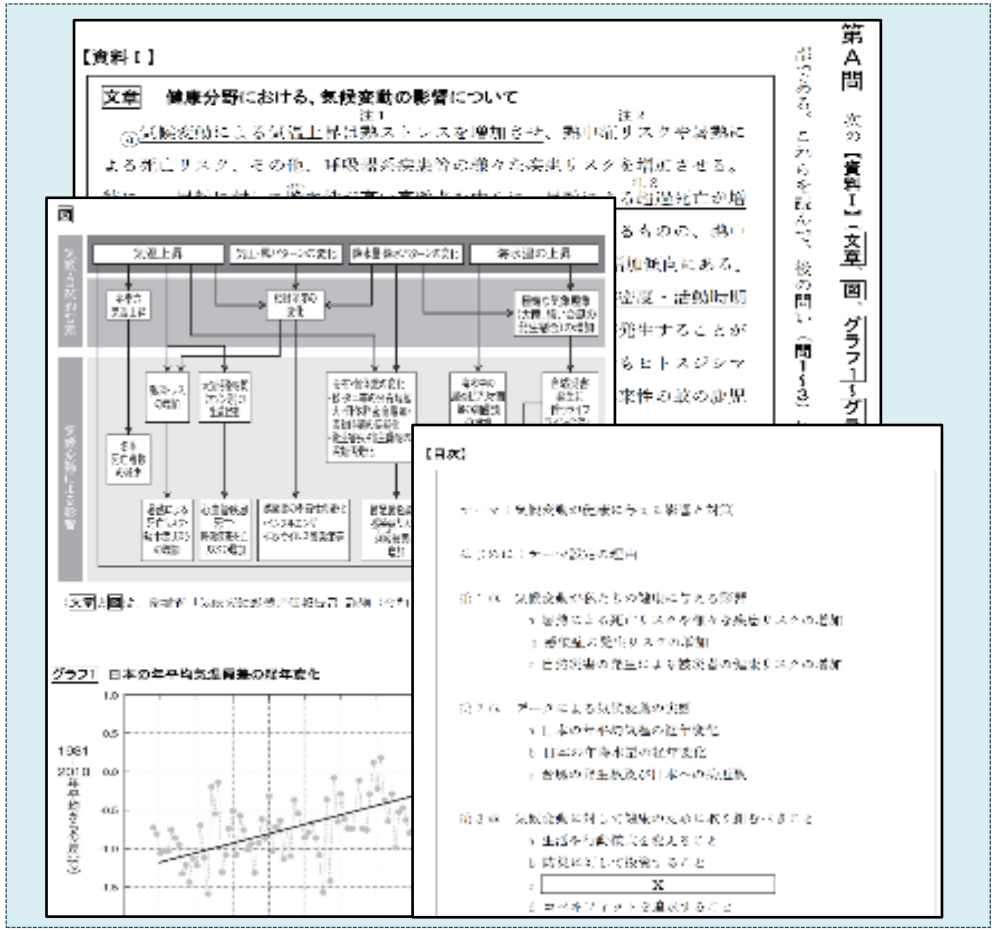
気候変動が健康に与える影響についてレポートを作成するという言語活動の場面。

地球温暖化の影響についての概略図・グラフ・報告文や、温暖化への適応策を説明した文章に基づき、テキストを図表と関連付けながら的確に読み取る力が問われた。

加えて資料を踏まえたレポートを作成する場面で、目次の内容や構成について分析、検討する力等が問われた。

▼問題のポイント・アドバイス

文章の読解だけでなく、図やグラフを正確に読み取る力やそれらを関連づけて解釈する力を養っておくことが求められる。



©Kawaijuku Educational Institution.

この資料は配布しておりません

©Kawaijuku Educational Institution.

河合塾

共通テスト「地理歴史・公民」の変更点

地歴公民は計６科目に再編。２科目受験する場合、選択不可の組合せがある。

新学習指導要領科目		共通テスト出題科目	
必履修科目	選択科目		
地理総合 ＋	地理探究 →	「地理総合,地理探究」	必履修科目と選択科目を総合した科目
歴史総合 ＋	日本史探究 →	「歴史総合,日本史探究」	
	世界史探究 →	「歴史総合,世界史探究」	
		「地理総合/歴史総合/公共」	必履修科目を組み合わせ、３分野から２つを選択する
公共 ＋	倫理 →	「公共,倫理」	必履修科目と選択科目を総合した科目
	政治・経済 →	「公共,政治・経済」	

２科目選択時に組み合わせ不可の科目

①「公共,倫理」と「公共,政治・経済」

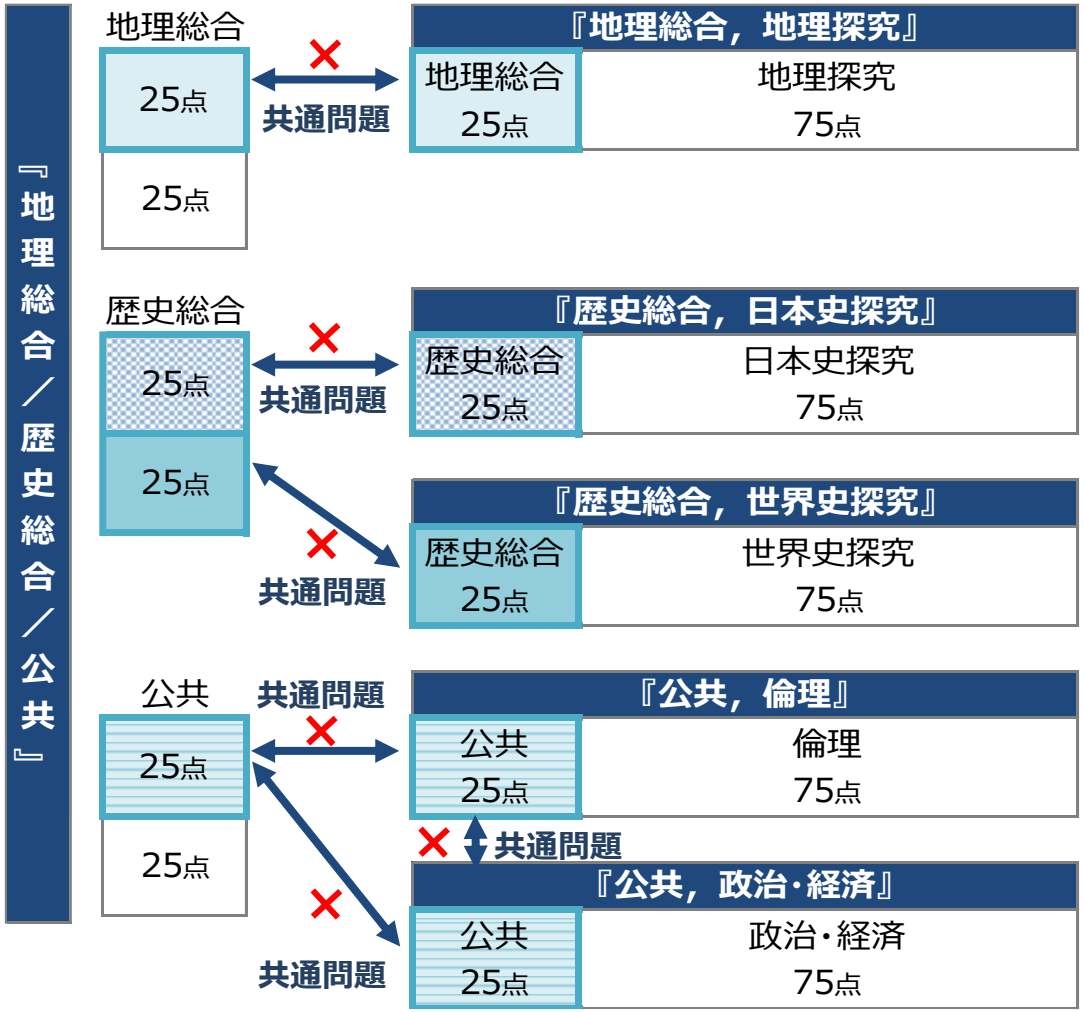
②「地理総合/歴史総合/公共」で選択した分野と同じ名称を含む科目

例）「地理総合/歴史総合/公共」の「地理総合」と「歴史総合」を選択した場合の地理歴史３科目

©Kawaijuku Educational Institution.

共通テスト「地理歴史・公民」試作問題の構成

地歴公民は計６科目出題されるが、２科目受験する場合、選択不可の組合せがある。



※大学入試センター公表資料より、試作問題と同じ大問が共通問題となるとは限らない

- ✓ 『地理総合/歴史総合/公共』は「地理総合」「歴史総合」「公共」（各50点）の３つから２つを選択解答（50点×２＝100点）
- ✓ 『地理総合/歴史総合/公共』と他の５科目には共通問題（25点）がある（図表の矢印でつながった部分）。配点は共通問題25点、固有問題75点
- ✓ ２科目受験する場合、共通問題を含む科目同士となる以下の科目の組合せはできない
  - 『公共,倫理』と『公共,政治・経済』
  - 『地理総合/歴史総合/公共』で選択した分野と同じ名称を含む科目
    ✕印の科目同士

©Kawaijuku Educational Institution.

河合塾

共通テスト「情報」の問題構成

解答大問数は４問。「情報Ⅰ」と「旧情報」で共通問題も。
プログラミング言語は、大学入試センター独自の日本語プログラム表記を用いる方向性で検討中。

『情報Ⅰ』

第１問（20点）	問１ ①	必答
	問２	
	問３	
	問４	
第２問（30点）	A（15点） ②	
	B（15点） ③	
第３問（25点）	④ プログラミング	必答
第４問（25点）	データ活用	

『旧情報』

第１問（35点）	A（20点）	問１ ①	必答
		問２	
		問３	
		問４	
	B（15点）	②	
第２問（15点）	（「情報の科学」履修者向け） ③		選択
第３問（15点）	（「社会と情報」履修者向け）		
第４問（25点）			必答
第５問（25点）	（「情報の科学」履修者向け） ④		選択
第６問（25点）	（「社会と情報」履修者向け）		

①②③④は、「情報Ⅰ」と「旧情報」で共通問題だった（65点分）

※大学入試センター資料より作成（2022年11月現在）

©Kawaijuku Educational Institution.

模試の結果から見えてきたこと

● 全統共通テスト高２模試（情報Ⅰ）

平均点｜50.0点
選択率｜67.7%

設問	説問内容	配点	平均点
1	情報社会の問題解、情報デザイン	20	11.7
2	デジタル化、知的財産権	30	18.7
3	アルゴリズムとプログラミング	25	9.1
4	データの圧縮、ネットワーク	25	10.5

● 第１回全統共通テスト模試（情報Ⅰ）

平均点｜全体56.5点／現役56.4点／既卒58.1点
選択率｜現役61.8%／既卒14.5%

設問	説問内容	配点	平均点
1	個人情報、通信、五大装置等	20	13.9
2	情報の可視化・構造化、モデル化	30	22.6
3	アルゴリズムとプログラミング	25	5.5
4	デジタル通信、データベース	25	14.5

● 第１回全統共通テスト模試（旧情報）

平均点｜67.2点
選択率｜既卒54.0%

©Kawaijuku Educational Institution.

河合塾

共通テスト時間割

	１日目	２日目
9:30	9:30※～11:40（130分） **地理歴史･公民（２科目）** ※１科目受験者は10:40～	9:30※～11:40（130分） **理科（２科目）** ※１科目受験者は10:40～
13:00	13:00～14:30（90分） **国語**	13:00～14:10（70分） **数学①**
	15:20～16:40（80分） **外国語**	15:00～16:10（70分） **数学②**
	17:20～18:20（60分） **英語リスニング**	17:00～18:00（60分） **情報**

※大学入試センター資料より作成

©Kawaijuku Educational Institution.

共通テスト「理科」時間割の変更

- **2024年度までは試験時間が分かれている理科①・理科②を同一時間帯で実施**

2024年度
基礎科目と4単位科目が別時間帯

理科①	「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」

2科目必須／試験時間60分／
各50点2科目計100点

理科②	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」

最大2科目選択可※
1科目100点
試験時間1科目60分

※2科目を選択する場合、解答順に第1解答科目及び第2解答科目に区分し各60分間で解答

2025年度
理科は全科目同一時間帯で実施

理科	「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」 「物理」 「化学」 「生物」 「地学」

最大2科目選択可※
1科目100点
試験時間1科目60分

※『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は、「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」の4つを出題範囲としそのうち2つを選択解答
（配点は各 50 点）

※2科目を選択する場合、解答順に第1解答科目及び第2解答科目に区分し各60分間で解答

©Kawaijuku Educational Institution.

例）基礎を付した理科の扱い

理科の時間割変更により2024年度と同じ注釈だと、選抜方法が変わってしまう例

理科を１科目のみ利用するケースで受験生が理科を２科目受験している場合、「基礎を付さない理科」についても解答順を指定するのか、しないのかルールを明記する必要あり

共通テスト「理科」の科目採用ルール例

物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎から２または物理、化学、生物、地学から１

注）理科を学部が指定している科目数より多く受験している場合
①「基礎を付した科目」と「基礎を付していない科目」を受験している場合は、高得点科目を採用する
②「基礎を付していない科目」を２科目受験している場合は、第1解答科目を採用する

！「基礎を付した科目」は第2解答科目でも採用されると読み取れる

もしも、第2解答科目は認めないのであれば、正解はこちら

○ 注）「理科」から２科目受験している場合は、第１解答科目を採用する

©Kawaijuku Educational Institution.

国立大学協会の基本方針（2022年１月公表）

共通テスト

- 新教科「情報」を含む**６教科８科目を原則課す**
- 経過措置問題を含む「情報Ｉ」の活用方法等については、各大学が速やかに大学ＨＰで公表

一般選抜（個別試験）

- 論理的思考力・判断力・表現力評価のため**高度な記述式試験**を課す
- 学力試験では測れない能力・態度をより適切に評価するため、**調査書や志願者本人が記載する資料、面接等の活用を促進**

総合型・学校推薦型選抜

- 引き続き「学力の３要素」を多面的・総合的に評価するため、**一定の学力を担保した上で、**調査書等の出願書類に加えて小論文・面接などの多様な評価方法を活用し、**丁寧な入学者選抜の取り組みを加速・拡大する**

総合的な英語力（読む・書く・聞く・話す）評価

- 各大学のアドミッション・ポリシーに基づき、**様々な方法で総合的な英語力を評価する**
  民間の資格・検定試験活用の際には、受験機会の公平性・公正性の確保について配慮

※国立大学協会「2024年度以降の国立大学の入学者選抜制度－国立大学協会の基本方針ー」より（2022年１月公表）

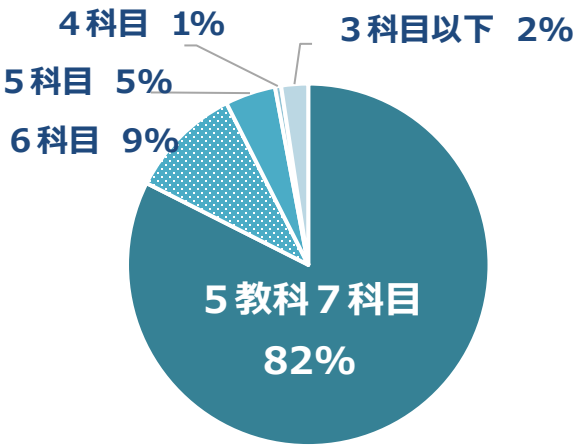
©Kawaijuku Educational Institution.

国公立大　共通テスト教科・科目数設定状況の変化

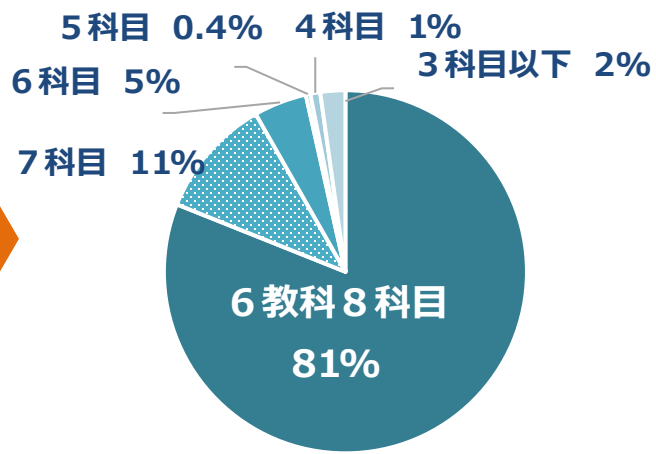
・国立大では多くが5教科７科目から６教科８科目に移行
・公立大は2024年度までの教科・科目数を維持する大学があり、６教科８科目は約２割

国立大学

2024年度

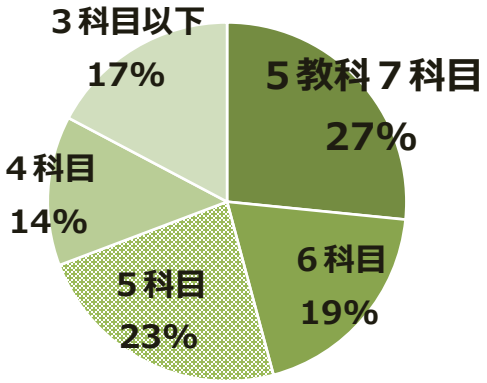


2025年度

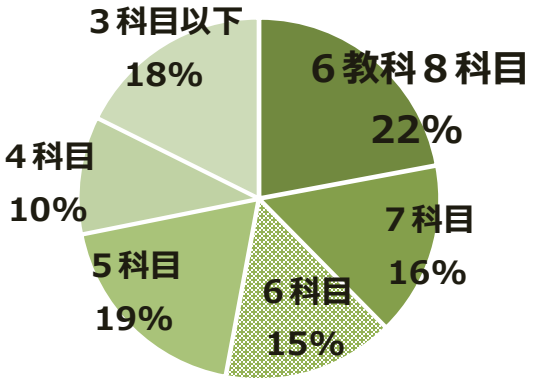


公立大学

2024年度



2025年度



※河合塾調べ、数値は2024年1月末現在、大学公表の募集区分に基づき一般選抜前期日程で集計

©Kawaijuku Educational Institution.

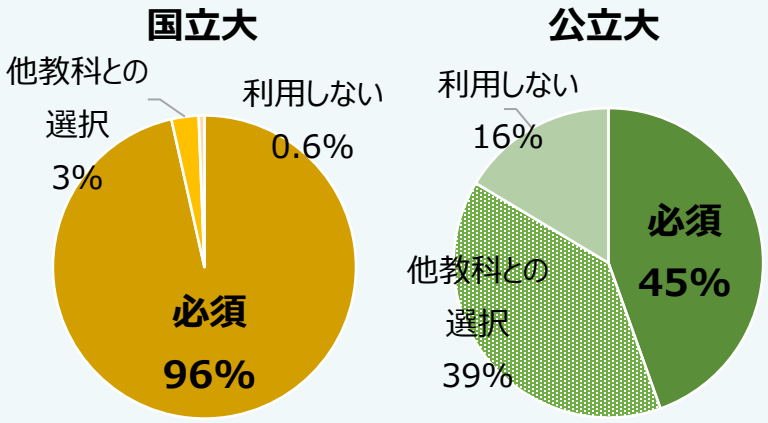
国公立大　教科「情報」の設定状況

● 共通テスト「情報」の設定状況

・国立大の**９割以上が情報を必須**としており、共通テスト全体の必要科目数も多くの大学で５教科７科目から６教科８科目に移行する
・公立大で**情報を必須とするのは半数未満**で、他教科との選択や利用しない大学も散見される

国立大を中心に情報を必須とする大学が多くみられるものの、**６割以上の国公立大が情報の配点比率を低めに設定**している。

共通テスト「情報」の利用状況



※河合塾調べ（2024年１月末現在）
※大学公表の募集区分に基づき一般選抜前期日程で集計

情報の配点比率が低い（10%未満）大学 63%

情報の配点比率が10%の大学 29%

情報の配点比率が高い（10%以上）大学 8%

※河合塾調べ（2024年１月末現在）
※配点公表大のうち一般選抜前期日程で６教科８科目を課す募集区分で集計

● 個別試験「情報」の設定状況

・国公立大の２次試験で**「情報」を出題する大学はごくわずか**で、影響はほとんどみられない

・電気通信大（情報理工－前）：理科（物･化）との選択 【情報Ⅰ】
・広島市立大（情報科学－後）：必須 【情報Ⅰ】
・高知大（理工－情報科学－前＜情報･物理受験＞）：理科（物）との選択 【情報Ⅰ】

©Kawaijuku Educational Institution.

私立大　教科「情報」の設定状況

● 共通テスト「情報」の設定状況

・私立大は**選択科目として利用するケースが主流**で、方式により課さないケースもみられる
・必須科目として利用する大学でも、複数ある共通テスト方式の中に、情報を必須とする方式があるというパターンがほとんど

私立大では共通テストで「情報」を受験していなくても、ほとんどの大学では受験可能といえる。

必須科目として利用	選択科目として利用	課さない（利用しない）
3%	80%	52%
・日本大（文理－社会） ・南山大（理工-前期６教科） ・福岡工業大（前期Ｂ） など	・東京理科大（Ａ方式） ・明治大（一部の学部・学科） ・同志社大（一部の学部・学科） など	・東京理科大（Ｃ方式） ・法政大（Ｃ方式） ・産業医科大 など

※河合塾調べ（2024年４月末現在）
※共通テスト方式で集計（１大学で学部・学科・方式により設定状況が異なる場合、それぞれを１件として集計）

● 個別試験「情報」の設定状況

・私立大では一部で**「情報」を選択科目に追加する、または「情報」を必須とした方式を導入する**といった動きがみられる
・出題範囲はほとんどの大学が「情報Ⅰ」
（慶應義塾大など「情報Ⅱ」まで課す大学もごく一部ある）

個別試験で「情報」を出題する大学

・慶應義塾大（総合政策、環境情報）
・駒澤大（一部の学部等）
・東京都市大
・東洋大（一部の学部等）　など

※河合塾調べ（2024年４月末現在）

©Kawaijuku Educational Institution.

共通テスト　旧課程履修者への経過措置

● 経過措置による出題科目

教科	科目		試験時間
数学	①	「旧数学Ⅰ・旧数学Ａ」「旧数学Ⅰ」	70分
	②	「旧数学Ⅱ・旧数学Ｂ」「旧数学Ⅱ」 「旧簿記・会計」「旧情報関係基礎」	70分
地理歴史	「旧世界史Ａ」「旧世界史Ｂ」「旧日本史Ａ」「旧日本史Ｂ」 「旧地理Ａ」「旧地理Ｂ」		1科目 60分
公民	「旧現代社会」「旧倫理」「旧政治・経済」 「旧倫理，旧政治・経済」		
情報	「旧情報」		60分

旧課程生は新旧いずれの科目も選択できる。
ただし、地理歴史・公民で新旧両科目を組み合わせた選択は不可（出願時に新旧どちらを受験するか申請）

● 理科

必要に応じて、**旧課程履修者が選択可能な問題を出題**する場合がある

● 情報

「旧情報」では、高等学校等において「社会と情報」「情報の科学」のいずれの科目を履修していても不利益が生じないよう、**両科目の共通部分に対応した必答問題**に加え、**「社会と情報」に対応した問題及び「情報の科学」に対応した問題を出題し、選択解答**させる

※大学入試センター資料より作成（2023年６月現在）

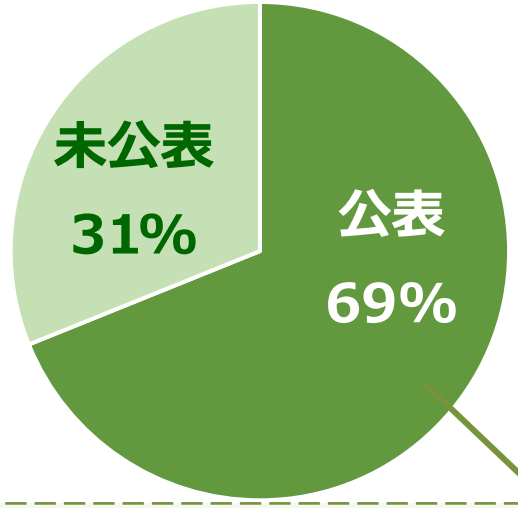
©Kawaijuku Educational Institution.

新課程入試情報　旧課程措置公表状況

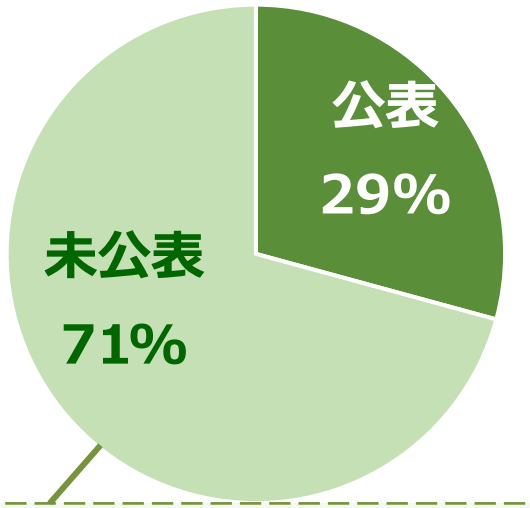
旧課程措置公表大学数**300**大学

国公立**124**大学、私立**176**大学（部分的公表を含む）

国公立大学



私立大学



主な公表大学

北海道大、弘前大、東北大、秋田大、筑波大、千葉大、東京大、東京工業大、横浜市立大、名古屋大、京都大、大阪大、大阪公立大、神戸大、岡山大、広島大、九州大、鹿児島大、
北海学園大、東北医科薬科大、学習院大、上智大、中央大、法政大、明治大、早稲田大、南山大、名城大、同志社大、立命館大、関西大、西南学院大　　など

※河合塾調べ、2024年1月末現在

©Kawaijuku Educational Institution.

共通テスト　得点調整の対象教科・科目

同一教科内の科目の平均点に大きな差が生じた場合に実施

- 2025年度は、新課程科目と旧課程履修者への経過措置科目間も調整の対象
- 対象科目間で①または②の平均点差が生じ、これが試験問題の難易差に基づくものと認められる場合

  ①**20**点以上の平均点差が生じた場合

  ②**15**点以上の平均点差が生じ、かつ**段階表示の区分点**差が**20**点以上生じた場合

※受験者１万人未満の科目は対象としないが、情報Ｉと旧情報はいずれかの受験者数が１万人未満であっても得点調整の対象とする

2025年度共通テスト　得点調整対象教科・科目

教科	新課程科目	経過措置科目
数学①	「数学Ⅰ,数学Ａ」	「旧数学Ⅰ・旧数学Ａ」
数学②	「数学Ⅱ,数学Ｂ,数学C」	「旧数学Ⅱ・旧数学Ｂ」
理科	「物理」「化学」「生物」「地学」	–
地理歴史	「地理総合，地理探究」 「歴史総合，日本史探究」 「歴史総合，世界史探究」	「旧地理B」 「旧日本史Ｂ」 「旧世界史Ｂ」
公民	「公共,倫理」 「公共,政治・経済」	「旧現代社会」「旧倫理」 「旧政治・経済」 「旧倫理,旧政治・経済」
情報	「情報Ⅰ」	「旧情報」

※大学入試センター資料より作成（2023年６月現在）

各教科の得点調整対象外となる科目

・数学①
「数学Ⅰ」「旧数学Ⅰ」

・数学②
「旧数学Ⅱ」「旧簿記・会計」「旧情報関係基礎」

・理科
基礎を付す科目

・地理歴史・公民
「地理総合/歴史総合/公共」「旧地歴Ａ科目」

©Kawaijuku Educational Institution.

新課程入試　科目設定にあたってのお願い

- 早期に入試科目・出題範囲・配点の公表を
- 共通テストの科目設定
  - ① 国語の配点…現古漢の配点の変更（現・古・漢：110・45・45）
    「近代以降の文章」のみ利用、「近代以降の文章または古文・漢文の高得点の方」
    など部分利用の際の配点に注意
  - ② 理科の時間割変更（従来の理①と理②を同時間帯で実施）
    2科目受験者の第1解答科目指定を行う場合、基礎科目を含めた利用方法の明示が必要。
    基礎科目を含めて第1解答科目利用方法の明示が必要（第1解答科目指定か高得点利用か）
- 個別試験の科目設定
  - ① 数学の出題範囲の明示（特に選択履修科目「数学Ａ」「数学Ｂ」「数学Ｃ」）
- 旧課程履修者への配慮…旧課程履修者が不利にならないよう必要に応じ経過措置を
  - ① 共通テスト科目　「旧課程科目不可」「情報Ｉを課すが旧情報は不可」はNG
  - ② 個別試験
    別問題を用意するケースは見られないが、「新課程と旧課程の共通の内容を出題」「旧課程履修者に配慮した出題」等を明記

©Kawaijuku Educational Institution.

2025年度入試概要　大学公表資料例

河合塾

①A大学（国語の配点変更が反映されていない）

（注１）…以下 a）b）c）d）のうち、いずれか最高点となるものを合否判定に使用する。

a）「近代以降の文章」100 点満点と「古典」の「古文」50 点満点と「漢文」50 点満点の合計 200 点満点を 150 点満点に換算した点数

b）「近代以降の文章」100 点満点と「古典」のうち「古文」50 点満点の合計 150 点満点の点数

c）「近代以降の文章」100 点満点と「古典」のうち「漢文」50 点満点の合計 150 点満点の点数

d）「近代以降の文章」100 点満点を 150 点満点に換算した点数

②Ｂ大学
（理科の試験時間帯一本化が認識されていない）

「物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から２
または物理、化学、生物、地学から１」

（注）
理科を学部が指定している科目数より多く受験している場合

①「基礎を付した科目」と「基礎を付していない科目」を受験している場合は、高得点科目を採用する

②「基礎を付していない科目」を２科目受験している場合は、第1解答科目を採用する

本来掲載したかったであろう注釈

（注）
「理科」から２科目受験している場合は、第１解答科目を採用する

③C大学（旧情報が利用不可）

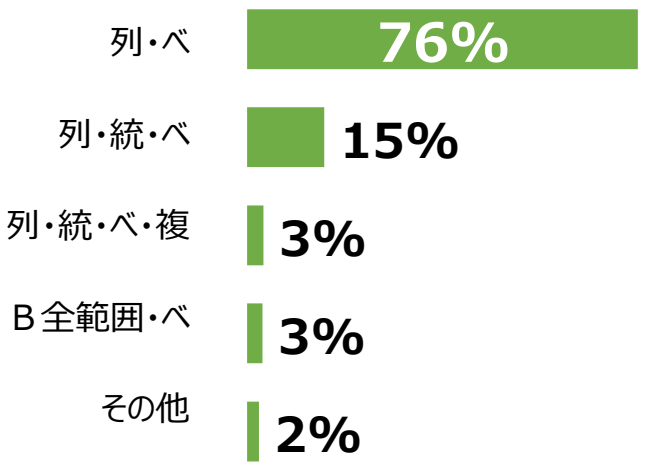
教科	課　程	科目
数学	新課程	「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ・数学Ａ」、「数学Ⅱ、数学Ｂ・数学Ｃ」
	旧課程	「旧数学Ⅰ」、「旧数学Ⅰ・旧数学Ａ」、「旧数学Ⅱ」、「旧数学Ⅱ・旧数学Ｂ」
地理歴史公民	新課程	「地理総合、地理探求」、「歴史総合、日本史探求」、「歴史総合、世界史探求」、「公共、倫理」、「公共、政治・経済」、「地理総合、歴史総合、公共」
	旧課程	「旧日本史Ａ」、「旧日本史Ｂ」「旧世界史Ａ」、「旧世界史Ｂ」、「旧地理Ａ」、「旧地理Ｂ」、「旧現代社会」、「旧倫理」、「旧政治・経済」、「旧倫理、旧政治・経済」
情報	新課程	「情報Ⅰ」
	旧課程	―

©Kawaijuku Educational Institution.

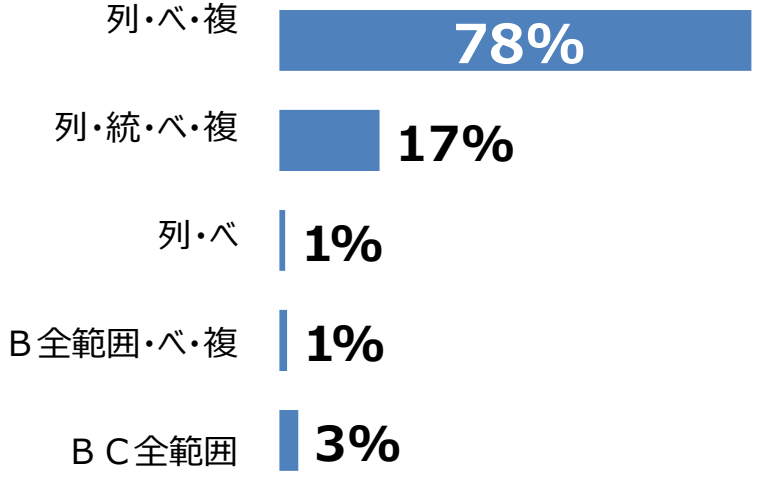
国公立大　2次試験「数学B・C」の出題範囲

- 数学B・Cの出題範囲は、「数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・C型」では「数列・ベクトル」が、「数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C型」では「数列・ベクトル・平面上の曲線と複素数平面」が主流

数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・C型



数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C型



東京大など一部の大学では、旧課程では出題範囲としていない数Bの「統計的な推測」が加わる

◆数学Bの範囲は「数列・統計的な推測」とする主な大学
宮城教育大、福島県立医科大、東京大、東京学芸大、岐阜大、浜松医科大、名古屋工業大、三重大、京都府立医科大、山口大、宮崎大　など

※河合塾調べ、2024年1月末現在
※一般選抜前期日程で数学B・数学Cの出題範囲を公表している募集区分で集計、数学が選択科目であるケースも含む

©Kawaijuku Educational Institution.

３．今後の大学入試（２０２５年度以降の変化）

国が進める高等教育改革

2024年度の文部科学省予算には高等教育改革をすすめるための予算が組み込まれている。特に**私立大では**2024年度からの**５**年間を**集中改革期間**と位置づけ、財政支援を通じて、**大学の統合・廃止、学部の再編**などをすすめようとしている。

理工農学系・情報系人材の強化（国公立大・私立大）

- **大学・高専機能強化支援事業**を通じ、理工農学系学部の設置（公立大・私立大対象）、情報系学部・大学院の体制強化（国立大では学部入学定員増を特例的に認める）を支援。
- **理工系・農学系分野などで女子学生確保**に積極的に取り組む大学に対し、財政面で支援。

変化を乗り越えるための構造転換（私立大）

私立大に示された３つの方向性

１．チャレンジ
学部転換や意欲的な経営改革を行う大学を底支え

２．連携・統合
合併の追い風となる特例措置などを講じ、大学運営の効率化を支援
文部科学省・私学事業団による経営相談、マッチング支援

３．縮小・撤退
募集停止後も教育研究活動が継続できる助成金を支給、不採算・定員未充足の解消を促す
ただし市場原理に任せて放置ではなく、学問分野・地域バランス、地方大が果たす役割などを考慮

2025年度入試でみえること

- 国立大の入学定員増
- 理工系学部での女子枠（推薦・総合型）設置
- 私立大の大学統合
- 私立大・短大の募集停止
- 公立大・私立大の理工系学部の新設

※中央教育審議会大学分科会　高等教育の在り方に関する特別部会（第２回）配布資料より作成

©Kawaijuku Educational Institution.

修学支援新制度の変更　教育機関の要件は厳格化、対象者は拡大

2024年度から修学支援新制度の機関要件（学校側の要件）が厳格化された。支援対象外となった大学等は次年度入学生より制度による奨学金給付と授業料減免が受けられなくなる。

一方、学生側に対しては制度対象者が拡大され、中間所得層の多子世帯などが新たに支援対象となった。さらに2025年度からは多子世帯の所得制限が撤廃される予定。

大　学

機関要件の厳格化（2024年度～）

１または２のいずれかに該当する大学は支援対象外

１．収支差額･外部負債の超過

直前３年度全ての「経常収支差額」、前年度の「運用資産－外部負債」のいずれもがマイナス

または

２．直近３年度全ての収容定員充足率８割未満

ただし直近の収容定員充足率が５割未満ではなく、直近の進学･就職率が９割を超える場合は取消猶予

学　生

学部段階の給付型奨学金と授業料減免の対象者拡大

2024年度～　中間所得層に対象拡大

住民税非課税世帯およびそれに準ずる世帯に加え、授業料等減免・給付型奨学金を多子世帯や私立理工農系の中間所得層（世帯年収約600万円*）に対象を拡大。　＊基準を満たす世帯年収は家族構成により異なる

▼

2025年度～　多子世帯無償化へ

多子世帯は所得制限を設けず、一定額まで大学などの授業料・入学料無償化（扶養される子ども３人以上の世帯の第1子から対象）

※文部科学省資料より

©Kawaijuku Educational Institution.

国公立大　主な入試変更

新設・改組　情報系学部の新設が続く

▶**大学の統合**
東京医科歯科大・東京工業大　⇒　東京科学大（※24年10月に統合予定）

▶**学部等の新設・改組**
岩手大（獣医）、秋田大（総合環境理工、情報データ科学）、山形大（社会共創デジタル学環）、筑波技術大（共生社会創成）、福井県立大（恐竜）、神戸大（システム情報）、下関市立大（看護）　など

▶**学科等の新設・改組**
岩手大（理工、農）、名古屋市立大（医－保健医療）、神戸大（医－医療創成工）、広島大（工－半導体システムプログラム）、山口県立大（国際文化－情報社会）　など

大学の動き　後期日程の廃止・縮小が進む

▶**後期日程の廃止**
茨城県立医療大、静岡県立大（食品栄養科学－食品生命科学）、京都大（法）、京都工芸繊維大、神戸大（医－保健－看護学）、岡山県立大（保健福祉－現代福祉）、長崎大（薬－薬）、沖縄県立看護大　など

▶**後期日程の縮小（募集人員の減員）**
公立はこだて未来大、茨城大（工）、東京学芸大、鹿児島大（理）　など

▶**後期日程の新規実施・復活**
宇都宮大（農－森林科学）、神奈川県立保健福祉大（保健福祉－リハビリテーション）、和歌山大（観光）　など

©Kawaijuku Educational Institution.

国立大　情報系学部の入学定員増

2024年度から国立大を中心に情報系学部の入学定員増の動きがみられる。2025年度も筑波大、横浜国立大、大阪大、広島大などで入学定員増がみられる。

入学定員を増員する主な大学

大学	学部等	学科等	コース・専攻等	入学定員 2024	入学定員 2025
福島	理工	共生システム理工		160	200
茨城	工	情報工		80	90
筑波	理工	工学システム		130	143
	情報	情報科学		90	100
		情報メディア創成		60	68
横浜国立	理工	数物・電子情報系	情報工学	47	70
三重	工	総合工	情報工学	65	100
滋賀	データサイエンス	データサイエンス		100	155
大阪	工	電子情報工		162	190
		応用自然科学		217	222
	基礎工	電子物理科学		99	103
		システム科学		169	174
		情報科学		83	101
神戸	システム情報	システム情報		107	150
奈良女子	生活環境	文化情報	生活情報通信科学	15	35
広島	情報科学	情報科学		155	200

※文部科学省資料より作成、入学定員には編入学の数値を含む
※神戸大（システム情報）の2024年度は工学部情報知能工学科の数値

選抜方法別の募集人員

①茨城大（工－情報工）

	一般選抜 前期	一般選抜 後期	学校推薦型選抜 一般枠	学校推薦型選抜 女子枠	学校推薦型選抜 専門高校推薦
2024	45	30	5	–	若干名
2025	**55**	**20**	**10**	**5**	–
	+10	-10	+5	+5	

- 茨城大では増員（+10名）に伴い、学校推薦型選抜を拡大。新たに女子枠を導入する。一般選抜は前期で増員、後期で減員となる。
- このほか、福島大や神戸大でも増員に伴い女子を対象とした入試枠・制度を構想。

②広島大（情報科学）

	一般選抜 前期	一般選抜 後期	光り輝き入試 総合型（Ⅱ型）	光り輝き入試 学校推薦型（地方創生）
2024	90	10	5	45
2025	**115**	**15**	5	45
	+25	+5		

- 広島大では増員（+30名）に伴い、一般選抜を拡大。前期は25名増、後期も５名増となる。

※大学公表資料より

©Kawaijuku Educational Institution.

私立大　主な入試変更

新設・改組　女子大の学部再編や情報系学部の新設が目立つ

▶**大学の統合**
桃山学院大・桃山学院教育大　⇒　桃山学院大（人間教育学部を新設）

▶**学部等の新設・改組**
北海道科学大（情報科学）、千葉商科大（総合政策）、大妻女子大（データサイエンス）、実践女子大（環境デザイン）、駒沢女子大（共創文化、空間デザイン）、清泉女子大（総合文化、地球市民）、東京理科大（創域情報）、日本女子大（食科学）、フェリス女学院大（グローバル教養）、岐阜聖徳学園大（人文）、愛知淑徳大（教育、建築）、日本福祉大（工）、人間環境大（総合環境）、追手門学院大（理工）、大阪電気通信大（健康情報）、関西大（ビジネスデータサイエンス）、甲南女子大（心理）、神戸女学院大（生命環境）、神戸女子大（教育）、武庫川女子大（環境共生）、環太平洋大（国際経済経営）、就実大（心理）、安田女子大（理工）、松山大（情報）、別府大（看護）　など

▶**大学・短大の募集停止**
ルーテル学院大、高岡法科大、短大23校（５月末現在）

大学の動き　入試方式の多様化・複線化が進む

▶**共通テスト方式の新規実施**
聖マリアンナ医科大、同志社大（グローバル・コミュニケーション）　※これまで一般方式のみ実施

▶**教科「情報」を出題する方式の新設**
東京都市大（「情報」試験方式）、京都産業大（「情報プラス」方式）など

©Kawaijuku Educational Institution.

２０２５年度入試の展望

入試の環境

- **大学志願者数は増加の見込み　⇒　受験人口の一時的な増加。その後は再び減少期に**
- **大学の統合・廃止、学部再編の動きが加速　⇒　増加する情報（理工）系。受給バランス崩れる**
- **新課程の変化は限定的　⇒　2026年度以降が本格的な新課程入試**

受験指導にあたって

- **教科「情報」への対応**

  「情報」の対策は必要だが、影響は小さく、過度な心配は不要。配点の重さからも既存教科の対策が重要。

- **大学合格は「最終目標」ではない**

  大学が変わる。入試だけを意識しているとミスマッチや入学後の後悔もあり得る。目先の合格だけでなく、進学後、大学卒業後を見据えて大学・学部を選ばせたい。

©Kawaijuku Educational Institution.

河合塾は生徒の進路実現のために
大学進学の最新情報をお届けします

👇 **新課程入試情報はこちらからご覧いただけます！**

河合塾 Kei-Net Plus 教育関係者のための情報サイト

https://www.keinet.ne.jp/teacher/

©Kawaijuku Educational Institution.

ご視聴いただき
ありがとうございました。

©Kawaijuku Educational Institution.